

ヨコハマの国際事業の
主な動きをお届けする

YOKOHAMA INTERNATIONAL DIGEST

平成 29 年 2 月 28 日
【発行】横浜市国際局政策総務課
企画担当 045-671-3826
ki-somu@city.yokohama.jp



【市内中小企業がセブで建設中の廃プラスチックリサイクル施設】

ペルー共和国の第一副大統領 が臨港パークの「リマちゃん 像」を訪問しました

外務省の招へいプログラムで来日中のペルー共和国のマルティン・ビスカラ第一副大統領兼運輸通信大臣が、2月18日に臨港パークにある、リマちゃん像を訪問しました。

リマちゃん像の横には「リマちゃんと握手 HOLA AMIGOS！こんにちは アミーゴス」と書かれており、訪れたマルティン・ビスカラ第一副大統領も、笑顔でリマちゃんと握手を交わしました。

※リマちゃん像

1899年、日本人移民790人を乗せた第1回移住船が横浜港からペルーに出港し、ひと月余りの船旅を経て、カヤオ港に到着しました。移住100周年にあたる1999年に、臨港パークに、記念石像の「リマちゃん」が設置されました。

なお、リマ市のペルー日本人協会入り口には、移住50周年を記念し、千羽鶴を首にかけて、リマちゃんと同じポーズで右手を差し出している「さくらちゃん」という石像が設置されています。



インターンシップで来浜した台湾人学生が林市長と面会しました

横浜の企業で約1か月のインターンシップを経験した台湾の学生5名が、2月16日に、林市長と面会をしました。

昨年10月に市長が台北を訪問した際、日本でのインターンシップ事業に参加する学生向けに講演を行ったことを受け、今回の横浜企業研修に参加した学生から修了報告と、研修で体験したことや苦労したこと等について意見交換が行われました。

※インターンシップ受入事業

公益財団法人横浜企業経営支援財団（IDEC）が窓口となって、2005年から台湾貿易センター（TAITRA）と提携し、経済交流の一環として、横浜市内企業へのインターンシップ受入を実施しています。

これまで延べ200社以上の企業が、約240名の台湾学生を受け入れており、多くの卒業生が台湾経済を支える大手企業や日系企業で活躍しています。



(面会の様子)

メトロセブにてビジネスマッチングセミナーを開催しました

アジアのリゾート地として有名なセブを擁するフィリピンのセブ都市圏（メトロセブ）では、急速な経済発展と人口増加によって、廃棄物処理や上下水道の整備をはじめとした都市課題を抱えています。

横浜市はセブ市と平成24年3月に覚書を締結し、都市課題解決の支援と市内企業の海外展開を支援するY-PORT事業に取り組んでおり、本年2月にセブにおいてアジア開発銀行の参加のもと、ビジネスマッチングセミナーを行いました。

同セミナーには、本邦から市内企業を中心に14社、またメトロセブ内の都市、現地の商工会議所、現地企業等からは約60名が参加し、廃棄物管理、建物の省エネ、渋滞対策といった現地の環境課題が議論されました。また、それらの解決に向けたADBやJICAの資金スキームや企業からの支援策などについて積極的な情報共有が行われました。



(現地合同調査の様子)